

放課後子ども教室がもたらす「育ち効果」の検討 ——大学の地域貢献に関する一報告——

北原靖子*・蓮見元子**
川嶋健太郎***・浅井義弘****

Does the Classroom after School Promote Child's Growth? A Report Concerning Contribution of University to Local Committee

Yasuko KITAHARA, Motoko HASUMI, Kentaro KAWASHIMA, Yoshihiro ASAI

要 旨

千葉県我孫子市では、児童が「安全かつ健全に（市推進計画）」「安全・安心して健やかに（放課後子どもプラン）」育つことを目指し、市立第一小学校内に放課後子ども教室「あびっ子クラブ」を開室した。市行政は本クラブの運営を実施・評価する一方、放課後対策に関する検討委員会を通して、今後の子ども支援について協議する場を設けている。筆者たちは検討委員会メンバーとして協議に参加すると共に、各種調査に関する提案・実施・結果フィードバックを行ってきた。本稿では、その一端として第一小学校児童全数アンケート調査を行った経緯を述べ、委員会に提供した報告書を資料として添付した。

あびっ子を利用していない児童も分析対象に含めると、「あびっ子で過ごした児童は他で過ごした児童と比べ、より安全健全な活動ができたか」「健全育成上気になる児童にとっても、あびっ子は利用できているか」など、あびっ子の健全育成効果について、より踏み込んだ検討が可能となる。そこで、今回は低学年には理解しやすく歪みが生じにくいであろう質問を工夫し、全学年を対象とした質問紙調査を行った結果、あびっ子が本来の設置意図を充たせているであろうことが確認された。このような調査の理論上方法論上の検討・提案は、大学の専門性を活かした地域貢献の好例といえよう。

キーワード：放課後子ども教室、健全育成効果、全数調査

*教授 発達心理学

**教授 発達臨床心理学

***講師 学習心理学

****教授 臨床心理学

1. はじめに

千葉県我孫子市の第一小学校内にある放課後子ども教室「あびっ子クラブ（以下あびっ子）」は、『小学生の全児童を対象に、安全かつ健全に放課後や土曜日等を過ごすことができる「子どもの居場所」を全小学校区で実施する』と謳う我孫子市「子どもの居場所作り推進計画」の要の一つである。平成19年度開室から三年を迎えたが、その活動状況は市の放課後対策事業検討委員会の席上で随時報告され、先駆モデルとして注目を集めてきた。今年21年度からは他学校区での展開も視野に入れて「放課後児童クラブ（いわゆる学童保育、以下学童）」との一体化運営・登録制に転換し、その検証評価も求められている。

筆者たちはあびっ子開室当初から学生ボランティア紹介など現場の活動実践に協力すると共に、平成20年度は蓮見・北原が、平成21年度は北原・川嶋が放課後対策事業検討委員のメンバーとなり、あびっ子に関する各種調査の提案・実施・結果のフィードバックを行ってきた。本稿では、第一小学校全校児童を対象に行った放課後活動質問紙調査のあらましについて述べ、放課後対策事業検討委員会及び第一小学校へ提供した結果報告を添付した。あびっ子利用児童を対象に行った満足度聴きとり調査（北原・蓮見・川嶋・浅井, 2008）に続き、本報告は、大学の専門性（学問の知）を地域貢献に活かす具体例を紹介するものである。

2. 「安全で健やかな育ち」の検証

我孫子のあびっ子をはじめ、現在わが国では「地域社会の中で、放課後や週末等に子どもたちが安全で安心して、健やかに育まれる」ことをめざす放課後子どもプラン推進事業が進められている。全国各地で展開されている放課後子ども教室を通覧すると、設置数はもとより設置場所・年間開催日数・「学習」実施有無に至るまで実に多様で、本プラン事業が地域主体で「地域性を活かして」と謳われているとおりである（文部科学省・厚生労働省放課後子どもプラン連携推進室, 2009）。その中であびっ子は、「学校内に設置する」「平日放課後と長期休暇中の終日を含め最大限開室する」「体験学習の機会を随時提供する」など、全国的に見ても意欲的な運営を行っている。児童の参加についても、登録率（全校約8割が登録）・参加人数（平日40名以上が参加）・学童保育利用児童とその他児童の参加バランス（偏りなく同程度利用）の複数観点から肯定的評価が得られている（我孫子市放課後事業検討委員会, 2009）。

一方で筆者たちは、子ども自身の声を聴くことも重要だと考え、タッチパネルパソコンを用いて低学年でも容易に参加できる児童アンケートを工夫して、児童に試してもらっている。開

設初年度末に学童保育室にパソコンを置いて学童保育登録児童を対象として試行した結果では、彼らのあびっ子への満足度は中程度に留まっており、あびっ子をよく利用する子は大人との関わりを重視していることが示唆された（川嶋・北原・蓮見・浅井，2009 蓮見・北原・川嶋・浅井，2009）。学童児童はあびっ子ができて活動可能範囲がぐんと拡大したのだが、本結果をみると、だからといってあびっ子が大歓迎されるとは限らないのがわかる。大人が「よい・わるい」を考えても当たらない場合があるのをふまえれば、開室日数や参加数だけでなく、やはり当事者の意見に耳を傾ける必要があるだろう。筆者たちはその後もタッチパネルパソコンを用いて調査を継続し、子どもの声を適切に聴いて点検評価に活かす検討を進めているので、それについてはまた機会を改めて報告したい。

このように、あびっ子では、現在さまざまな角度からふりかえりが行われていると共に、どんな結果も率直に受け止めて次に活かそうとする優れた人材に恵まれている。また放課後対策事業検討委員会でも、地域の「子どもの居場所づくり」の在り方を検討する上で、モデル校であるあびっ子の状況をよく把握することは大切だという認識が共有されていた。そこで今回はさらに一歩踏み込んで、あびっ子が本来趣旨である「子どもたちの安全で健全な育ち」に対し効果があるという保証（エビデンス）の検討を提案することにした。エビデンスには、「確かなものを与えている」という外的エビデンスと、「必要な者に与えている」という内的エビデンスの、二種があるとされる（神村，2004）。それをあびっ子に適用すれば、少なくとも以下の二点について確認するのが適切と考えた。

A 「外的エビデンス」：あびっ子に行った児童は、行かなかった児童と比べ、より安全で健やかな放課後を過ごせる

B 「内的エビデンス」：安全で健やかな育ちに本来不安のある児童も、不安のない児童と同程度には、あびっ子に行っている

AB二種のエビデンスを得るには、従来のようにあびっ子を利用している児童だけではなく、利用していない大多数児童を含めた踏み込んだ検討が必要である。その検証には実施上多くの負担が伴うため、従来の放課後子ども教室調査では利用児童のみが対象とされてきた（日本システム開発研究所，2008）。しかしさいわいにして調査実施を受け入れる土壌が醸成されていたため、あびっ子のある第一小学校の全面的な協力を得て、2008年・2009年の二度にわたって全校児童調査を実施することができた。放課後対策事業検討委員会のメンバーである校長先生はもちろん、校内での調査実施（質問紙配布・記入指示・回収）にご協力下さった担任各位、ことに質問項目の読み上げと逐次記入指示をして下さった低学年担任の先生方には、こころから感謝申し上げる。

さらに本調査では、「安全で健やか」な程度を子どもにどう尋ねるかが問題であった。子どもにとっては、あるいは一日引きこもってゲームするのが楽しいかもしれないが、それは安全で健やかな活動とは言いがたいので、子どもに「そこで楽しかったか」と尋ねるのは不適当である。保健衛生領域では、子どもではなく保護者など信頼できる大人が代わって評価することもよく行われるが（松田・山口，2005）、さまざまな場のさまざまな放課後活動について把握している大人を想定するのは困難であった。

そこで、A「外的エビデンス」について検討する上では、ことに低学年では自己客観視が難しく心理的構成概念を測定するのは困難なことをふまえ（櫻井，2007）、なるべく具体的な活動として尋ねることにした。これまでの保護者やサポーター調査結果を参考に（北原・柴田・蓮見・川嶋・浅井，2009）、大人から見て「安全で健やかな」範疇で、かつ、あびっ子に期待を寄せている活動として、とりあえず以下の4点が選ばれた（2009年度低学年調査）。

*（自分らしい活動）：自分がやりたかったことは、できましたか？（勉強でも、休憩でも、遊びでも、何でもいいです）

*（安全）：こまったこと・こわいと思ったことは、ありましたか？（逆転項目）

*（友だちとの交流）：学校の同じクラスの子とは、遊びましたか？

*（異年齢間交流）：違うクラスや学年の子とは、遊びましたか？（きょうだいでもいいです）

さらに低学年には上記の問いを投げかける期間を「（平日の）きのうの放課後、クラスで「さよなら」してから夕ごはんを食べるまでの間」一日のみに限定し、その回答も各々「はい・いいえ」の2件法に単純化した。当日の放課後居場所については、学童・あびっ子・塾や習い事・友だちの家・親戚の家・公園などの遊び場の6つを挙げて、各々「きのうの放課後、あなたは（そこに）行きましたか？」と尋ね、「はい・いいえ」の回答を元に把握した。さらに複数の場所に「はい」と回答した児童は場所と活動の関連性が多義的として除外し、全てに「いいえ」と回答した児童は「自宅」として居場所に計上し、計7つのいずれかの場所単独利用児童226名（77.1%）を分析対象とした。

一方B（内的エビデンス）について検討する上では、各児童の「育ち」の程度について、その日限りに留まらない安定した状態を把握する必要があった。そこで「安全で健やかな育ち」指標として、児童のQOL（生活の質）を把握する既存尺度Kid—KNDLの中から、あびっ子で育みが期待される「自己肯定感」「友人関係」の2下位尺度（各4項目5件法）を抽出して用いた（2009年度高学年調査）。本尺度は「この一週間位を思い出したとき、あなたはどんなだったか」を尋ねるもので、その信頼性妥当性が保証される対象年齢は3年生以上とされる（柴田他8名，2003）。高学年には、これに併せて、学校（部活や練習）・学童・あびっ子・塾や習

い事・友だちか親戚の家・公園などの遊び場の6場所を挙げて、「この一週間、放課後に行った程度」について「1: ぜんぜんない」から「5: いつも」までの5件法で尋ねた。あびっ子をよく利用している低学年が健やかな育ちの分析から外れてしまうのは残念だったので、試しとして、低学年質問紙には「自己肯定感」の下位尺度から以下の2項目5件法を挿入した。

*あなたは、楽しくて沢山笑ったことがどれ位ありましたか？

*あなたは、自分にどれくらい満足していましたか？(自分のことが好きだという意味です)

3. 結果と考察

これらの調査結果をまとめた報告は、放課後事業検討委員会に資料として提供した。本稿には2009年の資料を添付したので具体的な数値はそちらで把握するとして、概ねA(低学年)B(高学年)とも当初期待したとおりの結果を得て、あびっ子の健全育成効果が確認された。その一方で、あびっ子の「効果」は万能ではないことも示唆された。

たとえば、低学年の結果によれば、児童の8割が「やりたかったことはできた」、2割が「こまったこと・こわいことがあった」とし、それらの回答比率に有意な場所の効果は認められなかった。つまり、子どもたちにとっては、あびっ子が特別に「安全」で「やりたいことができる」場だったわけではない。ちなみに放課後を自宅で過ごした3割の児童でも、同程度に困ったり怖かったりしたことがあったとしたのは興味深い。どの場所にも相応の制約やルールがある以上、どの場所も子どもにとってサンクチュアリにはなりえないのだろう。現代は子どもの安全が不安だとされ、保護者は放課後子ども教室が地域の「安全な居場所」であることを求める声が高いが(高橋・請川・滝澤・結城, 2009)、本結果をふまれば、大人自身もどこかの場に過剰な期待を寄せていないか冷静に省みたくえて、事故や犯罪の発生率など客観的指標を参照し、その地域にふさわしい「子ども居場所づくり」を推進するべきだろう。

また高学年の結果によれば、あびっ子をあまり利用しない多数児童のQOLが特に低いわけではないのと表裏一体に、利用する児童のQOLが特に高いわけでもないことが示された。QOLとの関連が最も強かったのは「友だちの家や公園に行っている程度」だったことをふまれば、つまるところ生活の質には、自主的に関わりあう「仲良し」がいることが鍵となるようである。あびっ子に一度でも出かけた経験がある児童の主なきっかけについて確認すると、低利用児童は「友だちにさそわれたから」という受け身の回答が多かった。あびっ子の参与観察からは、子どもたちだけでは必ずしもうまく遊びが続かない様子が報告されている(蓮見・北原・川嶋・浅井, 2009)。つきあいで顔を出してみた程度の姿勢では、あびっ子に来たから

とってすぐ楽しく遊べるわけではないだろう。そこに「大人が子どもを見守る」場の意義があると思われる。子どもが仲間と出会うチャンスを提供し、自主的な活動の足場を作ることは、大人の重要な役割だといえよう。

今後こうした効果検証調査を行う場合、A（外的エビデンス）検討上では「安全で健全な活動」を測るのにふさわしい項目をより吟味して尺度化すること、B（内的エビデンス）検討上では低学年でも測定可能なQOL指標を見出すこと（試みた2項目への回答は、危惧したとおり各々正方向に大きく歪んだ結果となり、妥当性に乏しいものであった）が求められる。Aについては、その時代・地域のニーズに応じた具体的な活動に関して、大人たちの中で合意形成する必要があるだろう。Bについては、質問紙に拘るだけでなく、行動観察や大人による評価など、また別の可能性も探るべきであろう。いずれも、今回に増して、子どもと関わる大人たちの連携と協力が必要とされる。また、その調査結果を安易な子ども管理や囲い込みではなく、地域で子どもを育むために何をすべきか見定めるのに用いると、しっかりと認識共有されているべきである。さまざまな調査の提案と結果フィードバックを重ねた過程を経て、現在では大学の専門性が適切に受け止められていると感じられるのは、ありがたいことである。調査の理論や方法論の提供と共に、それらを正しく活かす連携と信頼関係を構築することが、大学の地域貢献に通じるだろう。

文献

- 我孫子市子ども支援課, 2009, 放課後対策事業運営委員会会議録 千葉県我孫子市
(<http://www.city.abiko.chiba.jp/index.cfm/10,25037,152,html>)
- 蓮見元子, 北原靖子, 川嶋健太郎, 浅井義弘, 2009, 「放課後子ども教室について児童の声を聴く—タッチパネル式パソコンを使って—」, 『川村学園女子大学紀要』, 20, 1, pp.141-158.
- 蓮見元子, 川嶋健太郎, 北原靖子, 黒木啓美, 浅井義弘, 2009, 「放課後子ども教室における子どもたちの活動」, 『日本心理学会第73回大会発表論文集』, 1239.
- 神村栄一, 2004, 「主張訓練法 (As.T)」, 内山喜久雄・坂野雄二 (編) 『現代のエスプリ別冊 エビデンス・ベスト・カウンセリング』, pp.133-143.
- 川嶋健太郎, 蓮見元子, 北原靖子, 浅井義弘, 2009, 「放課後子ども教室における自己点検評価ツールとしてのタッチパネル式アンケート—学童保育室児童の声を聴く—」, 『川村学園女子大学研究紀要』, 20, 1, pp.127-140.
- 北原靖子, 蓮見元子, 川嶋健太郎, 浅井義弘, 2008, 「新規放課後活動に対する小学児童の満足度調査—子ども自身による「放課後子ども教室」評価の支援—」, 『川村学園女子大学紀要』, 19, 1, pp.85-104.
- 北原靖子, 柴田恵江, 蓮見元子, 川嶋健太郎, 浅井義弘, 2009, 「放課後子ども教室に関わる大人たち—我孫子市立第一小学校の学童保育保護者・教室サポーターを対象とした調査報告—」, 『川村学園女子大学紀要』, 20, 1, pp.113-126.

放課後子ども教室がもたらす「育ち効果」の検討

- 松田智大, 山口昌澄, 2005, 「子どものメンタルヘルスプロブレムの発生時期とその対応－調査表調査の提案」, 『Japan-National Institute of Public Health』, 54, 2, pp.113-118.
- 文部科学省, 厚生労働省放課後子どもプラン連携推進室, 2009, 『放課後子どもプラン－未来の大人たちのために, 今できること』 〈<http://www.houkago-plan.go.jp>〉
- 日本システム開発研究所, 2008, 放課後子どもプラン実施状況調査報告書 平成19年度文部科学省委託調査『総合的な放課後対策推進のための調査研究』 〈http://www.houkago-plan.go.jp/houkago/img/advisory/pdf/japan_system.pdf〉
- 柴田玲子, 根本芳子, 松崎くみ子, 田中大介, 川口毅, 神田晃, 古荘純一, 奥山真紀子, 飯倉洋治, 2003, 「日本における Kid-KINDL Questionnaire (小学生版 QOL 尺度) の検討」, 『日本小児医学会雑誌』, 107, 11, pp.1514-1520.
- 高橋健介, 請川滋大, 滝澤真毅, 結城孝治, 2009, 「全児童を対象とした放課後の居場所づくり事業のあり方に関する調査研究」, 『こども未来財団平成20年度児童関連サービス調査研究等事業報告書』

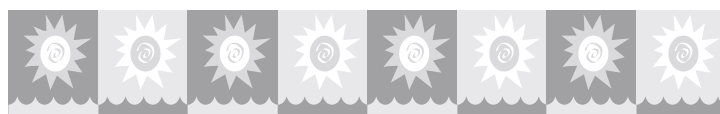
付記

本調査は, こども未来財団平成21年度児童関連サービス調査研究等事業の助成を得た。添付した資料報告は, 我孫子市放課後対策事業運営委員会第二回会議席上で配布紹介した資料を, 最終考察等, 一部に加筆修正したものである (考察部分は第三回会議席上に配布した)。

我孫子市放課後検討委員会提供資料（2009. 8. 4）を元に修整，2009.10.5

我孫子市立第一小全児童 アンケート調査 2009 報告

-放課後の居場所と諸活動との関連-



川村学園女子大学 放課後子ども研究会（蓮見元子・北原靖子・川嶋健太郎）

本資料照会先：

我孫子市下ヶ戸 1133 川村学園女子大学文学部心理学科

北原研究室（Tel&Fax: 04-7183-7102 Mail: y.kitahara@kgwu.ac.jp）

要約：放課後子ども教室「あびっ子クラブ」がある我孫子市立第一小において、担任先生方のご協力を得て全校児童生徒を対象にアンケート調査を実施し、平日放課後の居場所と活動及びQOL（生活の質）との関連について検討した（平成21年7月、回収数591）。その結果、「前日あびっ子クラブで過ごした低学年児童は、前日自宅や塾などで過ごした子より、友だちとの関わりが多い」など、場所のもつ各種効果が見出された。

調査報告項目

- 結果1 あびっ子参加状況（低学年・高学年別）
- 結果2 児童生徒における平日の放課後居場所
- 結果3 低学年における単独居場所利用者の放課後活動
- 結果4 前日居場所と最近一週間QOL(生活の質)の関係
- 資料1 質問紙本体（低学年用）
- 資料2 質問紙抜粋（高学年用）

放課後子ども教室がもたらす「育ち効果」の検討

結果 1 (1) 低学年（一年から三年）のあびっ子参加状況

登録：「あびっ子クラブに登録していますか?」「学童保育に登録していますか?」と、各々質問した。

参加：「きのう放課後、あびっ子に行きましたか?」「きのうの放課後、学童に行きましたか?」と、各々質問した。

(前日が平日の8日間のうち、任意の一日を選んで調査を実施した。)

結果 1-1 低学年のあびっ子参加状況

- (1) 登録数としては、あびっ子クラブ 218 名（有効回答数の 77.9%）に対し、学童保育室 33 名（11.8%）と、あびっ子が高い。
- (2) 調査 8 日間延べ参加実数が登録者数に占める割合では、あびっ子クラブ 55 名（あびっ子登録者の 24.8%）に対し学童保育室 26 名（学童登録者の 81.8%）%と、参加率としては、学童の方が高い。
- (3) 調査8日間で「前日あびっ子または学童に行った」児童は、延べ74名（有効回答数の 25.9%）に達した。なお、学童保育登録「はい」と「いいえ」のいずれも 2 割程度があびっ子に参加した（表1）。

表1 あびっ子クラブ と 学童保育 への参加（低学年）

			学童保育		合計
			いいえ	はい	
あびっ子クラブ	いいえ	人数	212	19	231
		総和の %	74.1%	6.6%	80.8%
	はい	人数	48	7	55
		総和の %	16.8%	2.4%	19.2%
合計		人数	260	26	286
		総和の %	90.9%	9.1%	100.0%

[2]

結果1(2) 高学年(四年から六年)のあびっ子参加状況

参加：「この一週間の思い出したとき、あびっ子にどれくらい行きましたか？（「1：ぜんぜんない」～「5：うんと」まで5段階評定）」と尋ねた。表5では、「1～2」選択を低利用者、「3～5」選択を利用者として再分類した。
 参加理由：「これまであびっ子へ一度でも参加したなら、その理由は？」と尋ね、「うちの人に言われた」「友だちに誘われた」「楽しそう」「チャレンジがある」の中から1つ選択を求めた。

結果1-2 高学年のあびっ子参加状況

- (1) 最近一週間のあびっ子利用程度が「3：すこし」「4：かなり」「5：うんと」と回答した高利用者は54名(有効回答数の18.1%)で、低学年と大きな差はなかった。
- (2) あびっ子に参加した主な理由について低利用者と高利用者で比較すると、高利用者では「友だちにさそわれたから」が少なく「楽しそうだから」が多く、低利用者より積極的な姿勢が窺えた。「うちの人に言われたから」を理由に挙げた者は総計56名(25.6%)であり、利用程度による差はなかった(表2)。

表2 あびっ子利用 と 参加理由のクロス表(高学年)

		あびっ子参加理由				合計
		おうちの人に言われたから	友だちにさそわれたから	楽しそうだから	チャレンジタイムがあるから	
あびっ子 利用	低利用 人数	43	57	53	13	166
	あびっ子 %	25.9%	34.3%	31.9%	7.8%	100.0%
	利用 人数	13	5	30	5	53
	あびっ子%	24.5%	9.4%	56.6%	9.4%	100.0%
合計	人数	56	62	83	18	219
	あびっ子 %	25.6%	28.3%	37.9%	8.2%	100.0%

[3]

放課後子ども教室がもたらす「育ち効果」の検討

結果 2 児童生徒における平日の放課後居場所

低学年：「学童」「あびっ子」「塾か習い事」「友だちの家」「親せきの家」「公園などの遊び場」個々につき、「昨日行ったか」を「はい・いいえ」で尋ね、「はい」と回答した者をその場の利用者とした。

高学年：「学童」「あびっ子」「塾か習い事」「友だちか親戚の家」「部活や練習で学校残り」「公園などの遊び場」個々につき「この一週間の利用程度」を5段階評で尋ね、「3：少し」「4：かなり」「5：とても」のいずれかで回答した者をその場の利用者とした。

自宅単独：どちらの学年でも、全ての場に利用者該当しなかった場合、自宅単独利用者とした。

結果 2 児童の放課後居場所

- (1) 低学年の91名（低学年有効回答数の31.1%）は、平日放課後は自宅だけで過ごしていた。自宅以外の放課後居場所数は平均1.0（標準偏差.88）で、出かけてもせいぜい他に一か所程度であった。
- (2) 高学年では、自宅中心者は13名（高学年有効回答数4.4%）に減少した。自宅以外の放課後居場所数は平均2.6（標準偏差1.28）で、外の家や公園などに出向く者が増え、塾や部活など学習面に関わる場所への参加も増加している。

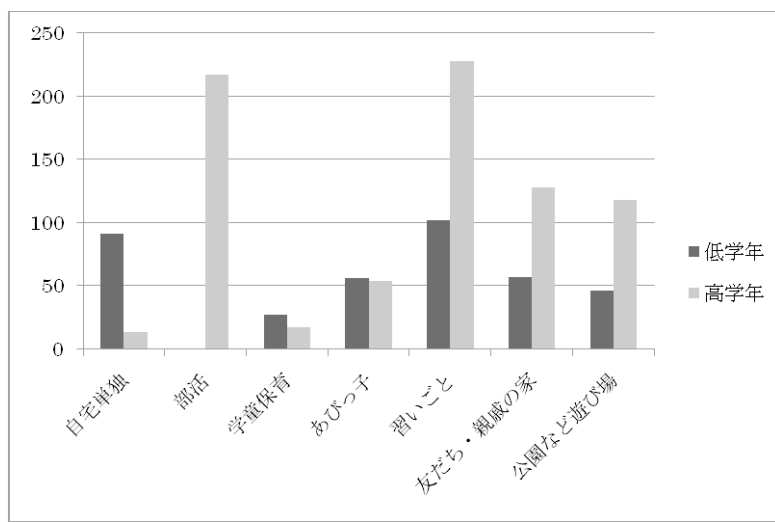


図1 「昨日（平日）放課後をどこで過ごしたか」の学年比較（自宅以外は複数回答）

[4]

結果3 低学年における単独居場所利用者の放課後活動

主な居場所：場所と活動の関連性を明らかにするため、低学年に関して、昨日放課後行った場所として一つだけに「はい」と回答した単独場所利用者を、自宅単独利用者と併せて抽出した。

放課後活動：放課後での活動を把握するために、以下の4項目（4点満点）での得点を求めた。

- * やりたかったことはできましたか？（「はい」なら1点）
- * 困ったこと・こわいと思ったことはありましたか（「いいえ」なら1点）
- * 同じクラスの友だちと遊びましたか？（「はい」なら1点）
- * 違うクラスや学年の子（兄弟可）と遊びましたか？ きょうだいでもいいです（「はい」なら1点）

結果3 低学年における居場所と活動の関連

(1) あびっ子・学童・友だちの家・公園で過ごした児童は、自宅・塾や習い事で過ごした児童より、4つの活動総計としては高かった（図2）。

(2) 活動項目毎に調べると、「やりたかったことができたか?」「困った・こわいと思ったことはあったか?」にははっきりした場所の効果はなかった。

「同じクラスの友だちと遊んだか?」では学童・あびっ子・友だちの家が肯定的に、「違う学年やクラスの子と遊んだか?」では学童が肯定的、塾や習い事が否定的に影響した。

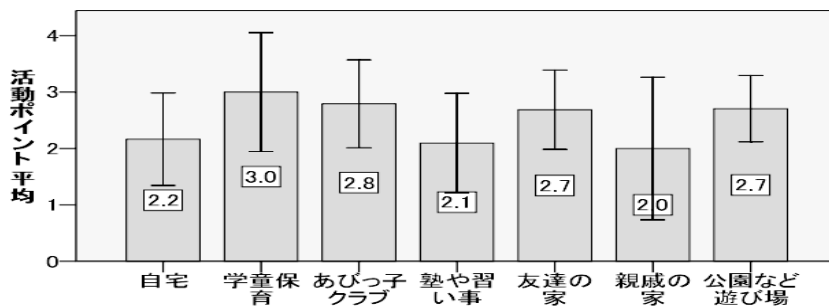


図2 低学年単独場所利用者の活動ポイント

[5]

放課後子ども教室がもたらす「育ち効果」の検討

結果 4 高学年における居場所と QOL(生活の質)の関係

居場所： 各場所の最近一週間利用程度について、「3：少し」以上選択者を「利用者」、「2：あまりない」以下選択者を「非利用者」とした。

QOL： この一週間の QOLを把握するために、以下の2つの観点について、自分に当てはまる程度を各々5段階評定・4項目で尋ね、総合評定平均を求めた。この QOL得点が高いほど、生活の質が高いといえる。

*わたしは自分に自信があった（自己肯定感に関する質問：4項目各5段階評定）

*わたしは友だちと一緒にあそんだ（友人関係に関する質問：4項目5段階評定）

結果 4 居場所と QOL(生活の質)の関係

(1) 高学年では、「塾や習い事」「友達か親戚の家」「部活や練習」「公園など遊び場」の利用者の QOL が若干高くなった。

(2) 学童やあびっ子と QOL との関係性は認められなかった。

「友だちの家」「公園など遊び場」に行く程度が高い児童ほど、QOL も高かった。

表 8 場所利用有無別の QOL 平均（高学年）

場所	非利用者の QOL 平均（標準偏差）	利用者の QOL 平均（標準偏差）	利用・非利用者間の平均差の検定結果
学童保育	3.4 (.68)	3.1 (.68)	
あびっ子クラブ	3.3 (.67)	3.4 (.71)	
塾や習い事	3.2 (.62)	3.4 (.69)	*
友達の家	3.3 (.68)	3.5 (.66)	***
部活や練習	3.2 (.68)	3.4 (.68)	*
公園など遊び場	3.3 (.70)	3.5 (.63)	***

*p<.05, ***p<.001 統計的に有意差がある

子ども全数調査の総合考察

Q1. あびっ子は「全校児童生徒に対して開かれた場所」になっているか？

本調査からは、低学年では児童の80%が登録し、その25%が平日1週間で1回以上あびっ子を利用していた。また、高学年でも20%弱が「少し」以上利用したと述べた。

さらに、低学年の場合、学童保育児童も保育外児童も同程度にあびっ子を利用していた。高学年でも「家の人に言われたから（行く理由）」は1/4程度に留まり、高利用児童に当理由が集中することもなかった。

以上をふまえると、数の面でも、利用者層や利用動機の面でも、現在のあびっ子は偏りの少ない「開かれた場所」となっているといえよう。

Q2. あびっ子は「有益な活動が保証される場」か？

低学年の場合、前日あびっ子に出かけたと答えた児童は、出かけなかった児童より、放課後「同じクラスの友だちと遊んだ」割合が向上し、あびっ子が友だちと遊ぶ場として効果的なのが示唆された。ただし、「異学年と遊んだ」をはじめ、「やりたいことができた」「困った（怖い）と思うことがなかった」点についての効果は、子どもたちの声としては必ずしも明確ではなかった。あびっ子には相応の活動上の約束があるし、活発に活動すれば少々困ったことが増えてもおかしくはない。現場では実際に異学年とやりとりをしている様子が認められるが、子ども自身はそれを「遊んだ」とは感じていないのかもしれない。

このように、一つ一つで子どもの声を丸ごと信じるのは危険な面もあるが、総合的な活動合計得点として見たとき、あびっ子がこれまでの遊び場（友達の家・公園など）に匹敵する高ポイントを取めたことは、高く評価できるだろう。

さらに個々の回答からも、一定の留保をおきつつ、今後の在り方へのヒントが得られると思われる（例：やりたいことができるように体育館など希望の多い活動場所をもっと開放できないか、活動規則をより明確にスリムにできないか、など）。

Q3. あびっ子には「効用」に加え「限界」もあるのか？

今回の高学年調査では、「友だちの家・公園など遊び場に行く程度」が多い児童はQOL（生活の質）が高く、児童にとって自主的に「仲良しと遊ぶこと」が重要なのが確認された。あびっ子に行ったからといって、仲間ができ、QOLも高くなると保証する結果は出ていない。しかし、見守る大人たちの工夫次第で、自主的な友だち関係を築ききっかけを作る可能性はあるだろう。そのためには、子ども自身が来なくなる情報提供や、遊びや関わりがうまくない子、友だちに誘われて初めて来た子どもでも場に入ってゆける工夫が求められよう。またQOLとしては、まずは子どもたち全員に大きく影響している家庭や学校での過ごし方こそを、第一に考えるべきだろう。

こどものくらしちょうさ（ていがくねん）

資料1

あなたにあてはまるカッコひとつをえらんで、なかに○をつけてください。

(1) がくねんは？： 一ねんせい() 二ねんせい() 三ねんせい()

(2) せいべつは？： だんし() じょし()

(3) 学童ほいくしつにかよって(とよろくして)いますか？： はい() いいえ() わからない()

(4) あびっ子クラブにかよって(とよろくして)いますか？： はい() いいえ() わからない()

(5) きのうの放課後、クラスで「さよなら」してから夕ごはんをたべるまでに、あなたが行ったところについて、たずねます。

① 学童ほいくしつに行きましたか？ はい() いいえ()

② あびっ子クラブに行きましたか？ はい() いいえ()

③ じゅくやならいごとに行きましたか？ はい() いいえ()

④ だれかともだちの家に行きましたか？ はい() いいえ()

⑤ だれかしんせきの家に行きましたか？ はい() いいえ()

⑥ 公園などのあそび場に行きましたか？ はい() いいえ()

(6) きのうの放課後、クラスで「さよなら」してから夕ごはんをたべるまでに、あなたにあったことについて、たずねます。

① じぶんがやりたかったことは、できましたか？(べんきょうでも、きゆうけいでも、あそびでも、なんでもいいです) はい() いいえ()

② こまったこと・こわいとおもったことは、ありましたか？ はい() いいえ()

③ 学校のおなじクラスのともだちとは、あそびましたか？ はい() いいえ()

④ ちがうクラスやがくねんの子とは、あそびましたか？(きょうだいでもいいです) はい() いいえ()

(7) この一しゅうかんぐらいをおもいだしたとき、あなたはどんなだったかをたずねます。

① あなたは、たのしくてたくさんわらったことがどれくらいありましたか？ この一しゅうかん……

☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
()	()	()	()	()

② あなたは、じぶんにとれくらいまんぞくしていましたか？ この一しゅうかん……
(じぶんのことが すきだというみです)

☆	☆☆	☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆☆
ぜんぜんない	ほとんどない	ときどき	たいてい	いつも
()	()	()	()	()

こども生活調査（高学年マークシート）

(1)あなたは、なんねんせいですか？

- 1: 四ねんせい 2: 五ねんせい 3: 六ねんせい

(2)あなたは、男子ですか女子ですか？

- 1: 男子 2: 女子

(3)この一しゅうかんの放課後（クラスで「さよなら」してから夕ごはんまでのあいだ）、あなたが行ったところをおもいでしてこたえてください。

		ぜんぜん ない	あまり ない	すこし	かなり	うんと
1	あなたは、部活やれんしゅうで学校にのこりましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	あなたは、学童保育室に行きましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	あなたは、あびっ子クラブに行きましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	あなたは、じゆくやならいごとに行きましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	あなたは、友だちかしんせきの家に行きましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	あなたは、公園などのあそび場に行きましたか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4)あびっ子へ行ったことが一度でもある人は、なぜさんかしたのですか。一番の理由を一つえらんでください。

- 1: おうちの人に言われたから 2: 友だちにさそわれたから
 3: 楽しそうだから 4: チャレンジタイムがあるから

つぎの、(5)(6)では、この一しゅうかんぐらいのことを思い出して、自分に一番あてはまると思うものを『』の中から一つえらんでください。
『ぜんぜんない／ほとんどない／ときどき／たいてい／いつも』のこぼのいみは、下の丸の大きさをみてかんがえてください。



(5)あなたは、自分のことをどのようにかんじていましたか。この一しゅうかん・・・

		ぜんぜん ない	ほとん どない	とき どき	たい てい	いつも
1	わたしは自分に自信があつた。（自分はよくやったといういみです）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	わたしはいろいろなことができるような気がした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしは自分にまんぞくしていた。（自分のことが好きだといういみです）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	わたしはいいことをたくさん思いついた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(6)あなたと友だちとのようすをきかせてください。この一しゅうかん・・・

		ぜんぜん ない	ほとん どない	とき どき	たい てい	いつも
1	わたしは友だちといつしょにあそんだ。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	ほかの友だちはわたしのことをすきだ（きらわれていない）と思った。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	わたしはわたしの友だちとなかよくしていた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	わたしはほかの子どもたちにくらべて、かわっているような気がした。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>